

1. 基本事項

作成日 令和02年08月07日(金)

施策		環境衛生の推進		期間	H. 30 ~ R. 4	施策担当部課名	環境衛生課
第2次総合計画	行政計画分野別名	大項目	200004 安心とやすらぎを感じられるまち (暮らし・環境)	施策の概要 (目的や対象)		地域が一体となって環境衛生の維持・向上に取り組むことにより、持続可能な循環型社会が構築され、衛生的な地域環境が保たれるようにすることを目的とします。	
		中項目	200003 人と自然にやさしいまちづくり				
		小項目	200002 環境衛生の推進				
重要度及び満足度の状況	資源循環型社会に対する重要度・満足度ともに比較的高い状況にある。地球温暖化の問題などの影響により、市民も資源循環型社会の重要性について理解している。			施策の推進のための主な取り組み	ごみ減量化とリサイクルの推進		
施策を取り巻く社会状況等	地球温暖化問題、天然資源の枯渇の懸念により循環型社会への転換が進められており、さらなるごみの減量化や分別の徹底が求められている。また、不法投棄防止のための取組も求められている。				不法投棄の防止に対する取り組みの推進		
						安定的で効率的な施設運営と公衆便所の適正な維持管理の推進	
						衛生害虫などに対する対策や犬・猫の飼育モラル向上の推進	

2. 評価指標

区分	指標名 (上段)		指標値 (上段は目標値・下段は実績値)						
	算出式・説明 (下段)		単位	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
成果指標	市民1人1日あたりの家庭系ごみの排出量		g/人	-	677.00	674.00	672.00	670.00	668.00
	資源物・小型家電を除く家庭系ごみの市民1人1日あたり平均			696.00	708.16	718.90	0.00	0.00	0.00
	ごみの減量化やリサイクルを心がけている市民の割合		%	-	91.20	91.60	92.00	92.40	92.80
	深谷市民まちづくりアンケート			87.30	85.00	85.70	0.00	0.00	0.00
				-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
				-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

3. 一次評価(今後の施策の方向性)

区分	2	1:現状維持 2:拡充 3:縮小
<評価コメント>		
市民1人1日あたりの家庭系ごみの排出量は昨年、一昨年度と比較して増加している。また、ごみの減量化やリサイクルを心掛けている市民の割合も目標値に達していない。引き続き市民のごみ削減に対する意識の向上やリサイクルの推進を実施する必要がある。		
評価者		環境衛生課長 富田 勝

4. 改善・改革プラン (3. 一次評価を受けての具体的な改善策)

区分	具体的な対応策等
<input checked="" type="checkbox"/> 既存事業の拡充 <input type="checkbox"/> 事業の新規立案 <input type="checkbox"/> 事業の廃止・縮小 <input type="checkbox"/> 事務事業の再編 <input type="checkbox"/> その他	持続可能な資源循環型社会の構築には、ごみの減量化やリサイクルを推進することが重要である。市民1人1日あたりの家庭ごみの排出量が増加している原因のひとつには、本市の3R(発生抑制、再使用、再資源化)活動の停滞が挙げられるため、収集所に出せるごみの区分を見直し、更なるリサイクルを推進し、市民1人あたりの家庭ごみの排出量削減に努める。

5. 二次評価

<所属長の見解>	
プラスチックは、非常に便利で使いやすい素材で、あらゆる分野で私たちの生活に浸透しているが、一方で、海洋プラスチックごみ問題や地球温暖化などの課題もある。この様な中、プラスチックごみ削減の一環として、国の施策であるレジ袋の有料化が実施された。ごみの減量化やリサイクルの推進など本市においても喫緊の課題であり、引き続き各種施策の推進をとおして持続可能な循環型社会の構築に取り組む必要がある。	
所属長	環境水道部長 小林 毅